

「ダイヤモンドトレール」を歩いていると...

いきなり目の前がパッと明るくなって、早春の陽射しに満ちた「落葉広葉樹林」に囲まれたエリアに入りました。

それまでは、薄暗くてやや肌寒く感じる「スギ・ヒノキ林」のエリア内を歩いていましたので、眩しくて思わず目を細めてしまいました。

まだ新葉が芽吹いていない枝々の間からは青空が広がっており、上着を脱ぎたくなるくらいポカポカとした陽気に包まれたのです。

豊かな陽射しが地面にまで届いていましたので、何か野草の花が咲いていないかと目を凝らして探してみると...

昨秋、地上に落ちた「コナラ」のどんぐりが、あちらこちらで発芽していました！

どんぐりは、多くの方にとって馴染み深いものと思われ、爪楊枝などを挿して「コマ」を作ったり、「やじろべえ」を作った経験をお持ちの方もおられるのではないのでしょうか。

林床で発芽しているどんぐりを観察すると、最初に「とがった方」から芽が出て、その芽は地中に向かって伸びて「根」になるようです。

そして、しっかり根を張って体を支えられるようになると、子葉（双葉ふたば）が開き始め、その二股に分かれる部分から「幹」になる芽が空に向かって伸びていくのですね。

まだ「殻」が付いたままのものや、既に「殻」が外れたものなどありますが、「殻」の中身である「子葉」の色は...

赤色や黄緑色のもの、その両方が混じったものなど、かなり個体差があるようですが、葉緑体の活動が活発になると、濃い緑色になっていくのだらうと思います。

写真 : 早春の落葉広葉樹林

写真 : コナラのどんぐり

とがった方から出てきた芽は、地中に入って「根」となります。  
殻の中に見える「子葉」は、赤っぽい色です。

写真 ・ : コナラのどんぐり

写真 の左の個体の子葉は黄緑色ですが、写真 の方は半分が赤っぽい色です。  
子葉（双葉）が二股に分かれる部分から、「幹」になる芽が伸び始めていますね。







